

## 専門機関による外部評価概要

原子力防災訓練及びオフサイトセンター運営訓練について、外部委託評価員（(株)日立パワーソリューションズ）により評価を実施。概要は、以下のとおり。

### 【原子力防災訓練】（10/12実施）

訓練項目	良 好 な 点	検討を要する事項
災害対策本部訓練	テレビ会議では、発電所の状況や防護措置の実施状況、関係市町の対応状況等について、円滑な情報共有が行われていた。	緊急時にもテレビ会議システムを適切に接続・運用できるようにするため、マニュアル整備や要員教育を行うことが望ましい。
住民避難・誘導訓練	避難バスからの住民誘導では、適切なタイミングで降車させるなど、避難所での受付の混雑対策や、安全面の配慮、感染症対策が行われていた。	訓練参加住民の不安をやわらげるとともに、理解を促進するため、事故状況を含めた情報提供を行うことが望ましい。
	地元高校生が海路避難訓練に参加したことは、若年層への原子力防災の理解を促進する貴重な機会となった。	引き続き幅広い年齢層に対する原子力防災の理解促進を図るとともに、より多くの住民が参加する訓練を実施し、避難計画の新たな課題抽出に繋げることが望ましい。
	介助付きで自力歩行が可能な要配慮者を想定した空路避難訓練では、車両からの搬送や誘導、ヘリ搭乗時の介助等の一連の手順が迅速に行われていた。	歩行が困難な要配慮者の搬送手順について確認することが望ましい。
緊急時モニタリング訓練	屋外活動での全面マスク着用を、TV会議を通して迅速かつ適切に指示しており、要員の安全確保が図られていた。	放射性物質の汚染拡大防止のため、ブルーシートで養生していたが、万一の試料の飛散等を考慮し、要員の背丈程度まで養生することが望ましい。
	屋外で活動する要員との情報共有手段として、タブレット端末及び汎用的なアプリケーション（LINE、GoogleMap）を取り入れ、情報共有の簡易化・円滑化が図られていた。	放射性物質放出後のモニタリング活動では、測定・採取班の出発前・帰着後に、個人線量計による被ばく線量管理を訓練に取り入れることが望ましい。

### 【オフサイトセンター運営訓練】（2/2実施）

訓練項目	良 好 な 点	検討を要する事項
オフサイトセンター運営訓練	総括班の主導で開催された班長会議において、会議開催準備に係る指示事項が伝達されるとともに、会議の議事次第案が共有されるなど、適切に調整を行うことで、各機能班による情報収集や会議資料作成等が効率的に進められていた。	業務の進捗状況等を共有する管理ツールとして活用するため、主要活動ボードについて、様式や記載要領の見直し等を検討することが望ましい。
	実動対処班は、COP（各機能班が収集した情報を集約・整理した共通状況図）を作成し、速やかな情報共有が図られていた。また、孤立地域の発生時には、地図システムを活用し、状況把握や住民避難の検討が円滑に行われていた。	研修や訓練による要員の理解や対応能力の向上を図るとともに、要員の役割分担を明確にし、各機能班が組織的な活動を実施できる体制（特に、中央から要員が到着するまでの初動対応時の体制）を検討することが望ましい。